腎臓病センター看護師の抱えるストレス
～アンケート調査～

船木弥生、鎌田きん子、山田かな、伊藤真紀子、松橋美結希
金　睦子、鎌田恭子、菅原美保子
秋田組合総合病院 腎臓病センター

The stress of nurses in kidney center

Yayoi Funaki, Kinko Kamada, Kana Yamada, Makiko Itoh, Miyuki Matsuhashi
Mutsuko Kon, Kyoko Kamada, Mihoko Sugawara
Kidney center, Akita kumiai General Hospital

＜Ⅰ．はじめに＞

透析看護では、長期に及ぶ患者との関係・疾患や医療機器に対する専門的知識が要求される。更に、高齢化・長期透析による合併症の問題・業務のコンピューター化も加わり、業務内容も複雑化している。また医療事故に関する報道も多く、看護師にかかるストレスも増大していると考えられる。そこで、当院腎臓病センター（以下腎センター）において日々スタッフが抱えているストレス内容を把握する為、アンケート調査を行ったので報告する。

＜Ⅱ．研究方法＞

1）研究期間：平成16年６月１日～11月20日
2）対　　象：当院腎センターに勤務している看護師20名
3）研究方法：質問記述式無記名アンケート
近澤氏の調査用紙を参照し、16項目を設定した（表１、２）。

表１．研究方法

研究期間	平成16年6月1日～11月20日
調査期間	平成16年8月16日～8月21日
対　象	腎センター勤務の看護師20名 （産休・育休2名を除く）
調査方法	質問記述式無記名アンケート用紙 （近澤氏の調査用紙を参照） 6日間以内に回収 回収率　100%

表２．アンケート調査

年齢（　　）　性別（　　）　経験年数（　　）　透析経験年数（　　）

1～13の質問についてストレスをどのように感じているか、下記の中の①～④の当てはまる番号を（ ）内に記入してください。

①非常にストレスである　②ややストレスである　③あまりストレスでない　④全くストレスでない

1. 透析機械の操作に対して（　）
2. プライミング～回収までの操作・手技対して（　）
　・プライミング操作について（　）
　・穿刺～透析開始までの操作について（　）
　・回収操作について（　）
3. 透析中の急変に対して（　）
4. 透析中の医療事故防止に対して（　）
5. 透析中のトラブル（機械・ダイアライザー等）に対して（　）
6. 自己管理困難な患者に対して（　）
7. ターミナル期の患者のケアに対して（　）
8. 同僚や上司、部下との人間関係に対して（　）
9. 患者への対応や人間関係に対して（　）
10. 医師や他職種との人間関係に対して（　）
11. 看護記録に対して（　）
12. 受け持ち患者への看護計画の立案に対して（　）
13. 医療処置や検査、指示受けに対して（　）
14. 診療介助（CAPD外来、処置介助等）に対して（　）
15. リーダー業務や各係等の役割に対して（　）
16. その他（　　）

最後に、ストレス発散方法をご記入ください。

＜Ⅲ．結果＞

当院腎センター看護師の年齢層は、40代８人、50代６人、30代５人、20代１人の順で平均年齢43.1歳であった。透析経験年数では、５年未満６人、５～10年未満４人、10～15年未満３人、15～20年未満５人、25～30年が２人であった（図１）。

ストレス内容としては８項目でまとめた。その結果穿刺～透析開始までの操作では、５年未満５人、10～15年未満２人が非常にストレスであると答えていた。回収操作では、５年未満１人、15～20年未満２人が非常にストレスであると答えていた（図２）。

透析中の医療事故防止では19人、透析中のトラブルでは全員がストレスと答えていた（図３）。

同僚や上司・部下との人間関係では、５年未満１人、５～10年未満１人が非常にストレスであると答えていた。リーダー業務や各係等の役割では、５年未満１人、５～10年未満２人、10～15年未満２人、15～20年未満２人、25～30年２人が非常にストレスであると答えていた（図４）。

患者への対応や人間関係では、５年未満３人、10～15年未満２人、15～20年未満２人が非常にストレスであると答えていた。自己管理困難な患者では、５年未満２人、５～10年未満１人、10～15年未満３人、15～20年未満４人、25～30年２人が非常にストレスであると答えていた（図５）。

ストレス発散方法については複数回答で、同僚に相談５人、睡眠・ショッピング４人、趣味・娯楽４人、友人と会話２人、飲食２人であった（図６）。

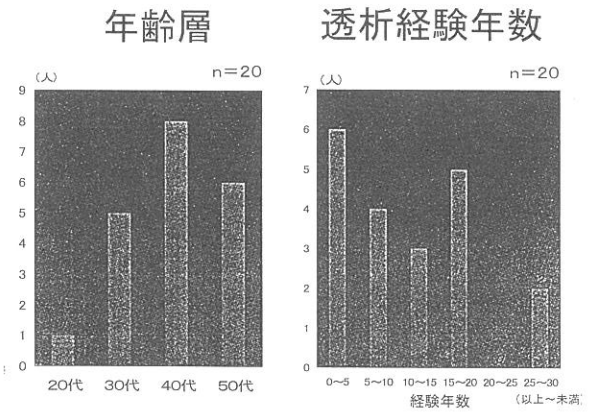

図１

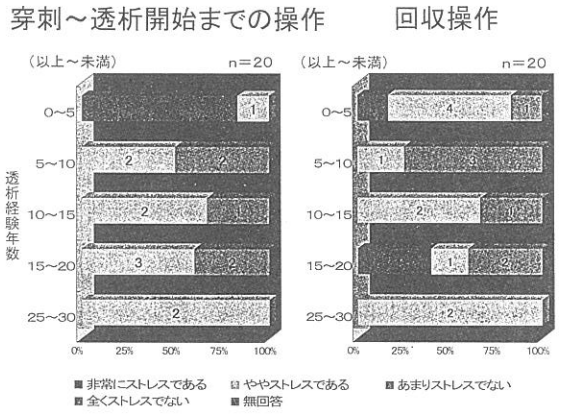

図２

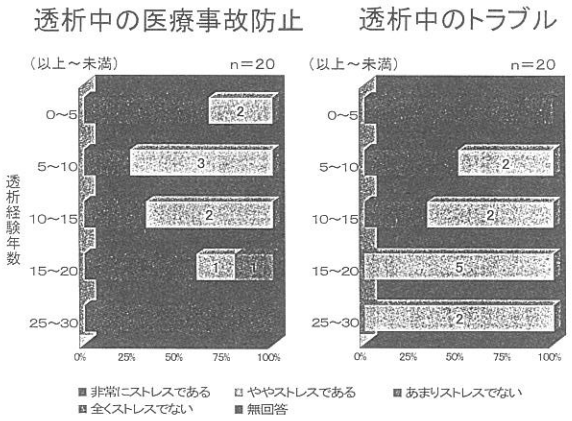

図３

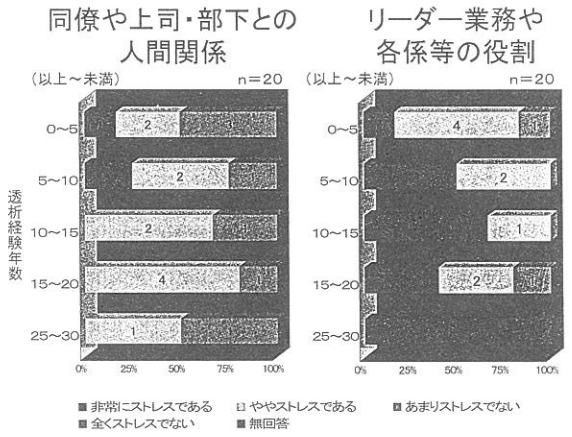

図４

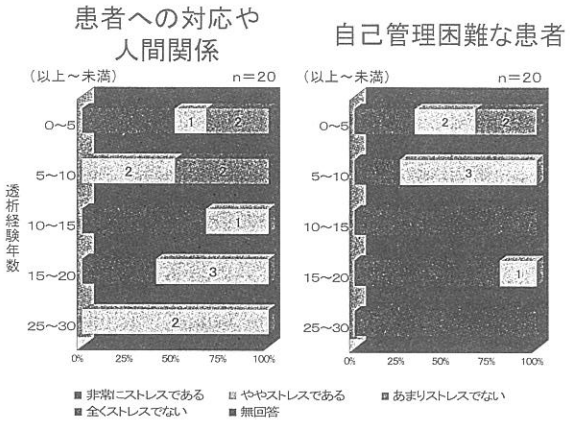

図5

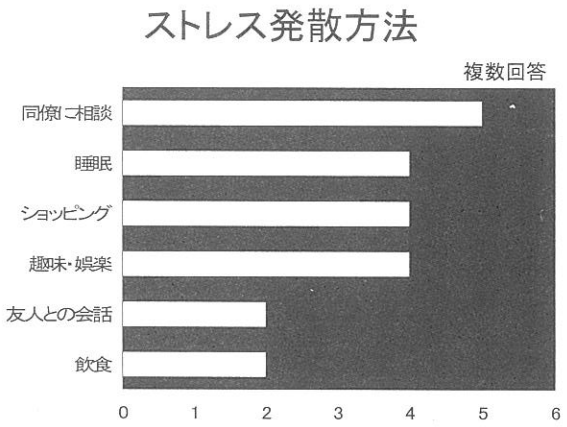

図6

＜Ⅳ．考察＞

日頃スタッフ間では、患者指導の難しさが話題にのぼる事が多く、患者ケアや人間関係に対するストレスが最も強いと予測された。しかし調査の結果、ストレスが最も強かった項目は透析中の医療事故防止・トラブルであった。透析中は循環動態が変化し、急変する可能性を大きく含み、抜針・漏血・操作ミス等の透析事故による失血は、患者を死に至らせる事もあり、準備段階から持続的な緊張と不安を抱え強いストレスになっている為と考えられる。医療事故がマスメディアで報道される機会も多く、自らの看護師生命に関わる事として受け止め、不安を感じていることも挙げられる。このことは、日本看護協会の看護職賠償責任保険制度に、当院腎センターのスタッフの全員が加入している事で、医療事故に対して関心が高い事が伺われる。

次に、透析経験年数が長くなるにつれて、リーダー業務や各係に対するストレスが強かった。これは、透析に関する知識や技術の習得によりチームリーダー等の業務を任される事から、自己責任の重圧を感じ精神的不安が強くなり、ストレスと感じる割合が高くなると考える。しかし、透析経験年数５年未満の看護師６人中５人は10年以上のキャリアがあり、看護経験が活かされない事への喪失感と焦りを感じ、指導される事へのストレスもあると考える。

自己管理困難な患者では、長期に接しているにもかかわらず指導効果がみえず、信頼関係を築く事の難しさもありストレスを感じていると考える。

ストレスの発散方法では、同僚に相談が最も多かった。これは、仕事上の悩みや葛藤から問題点を引き出し考えるというミニカンファレンス的状況を作ることで、問題点を共感していると考える。また、睡眠・趣味・娯楽・ショッピング等仕事から離れた環境に身をおく事でもストレスを軽減していると考える。

今回の調査で、ストレスが医療事故防止やトラブルに対して高かったが、各人がストレスと認識し、問題解決的コーピングが行われていた。今後更に、透析看護の知識や技術を積み重ね、自信を深めていくと共に、ポジティブな思考ができる能力を習得する事が自分自身のメンタルヘルスケアでは重要と思われる。

＜V．まとめ＞

1．全員がストレスを非常に強く感じていたのは、透析中の医療事故防止・トラブルであった。

2．透析経験年数が長くなるにつれて、自己責任への重圧によるストレスが強かった。

3．ストレス発散方法では、各人がストレスを認識し問題解決的コーピングが行われていた。

引用・参考文献

1）遠藤せつこ、加藤玲子：看護婦のストレス要因調査、第26回看護管理:138-141、1995.

2）相馬朝江、小山千加代、高尾優子：看護職とストレス、臨床看護26(2):239-242、2000.

3）池田雅枝他：看護師の感情認知困難度とストレスの関連、第34回看護教育:151-153、2003.

4）近澤範子：看護婦の Burnout に関する要因分析、看護研究21(2)、1998.